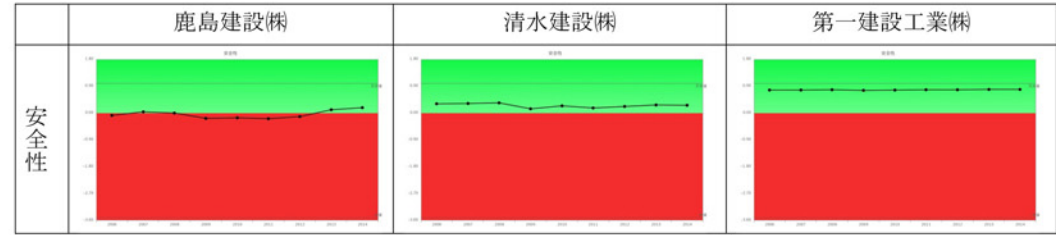
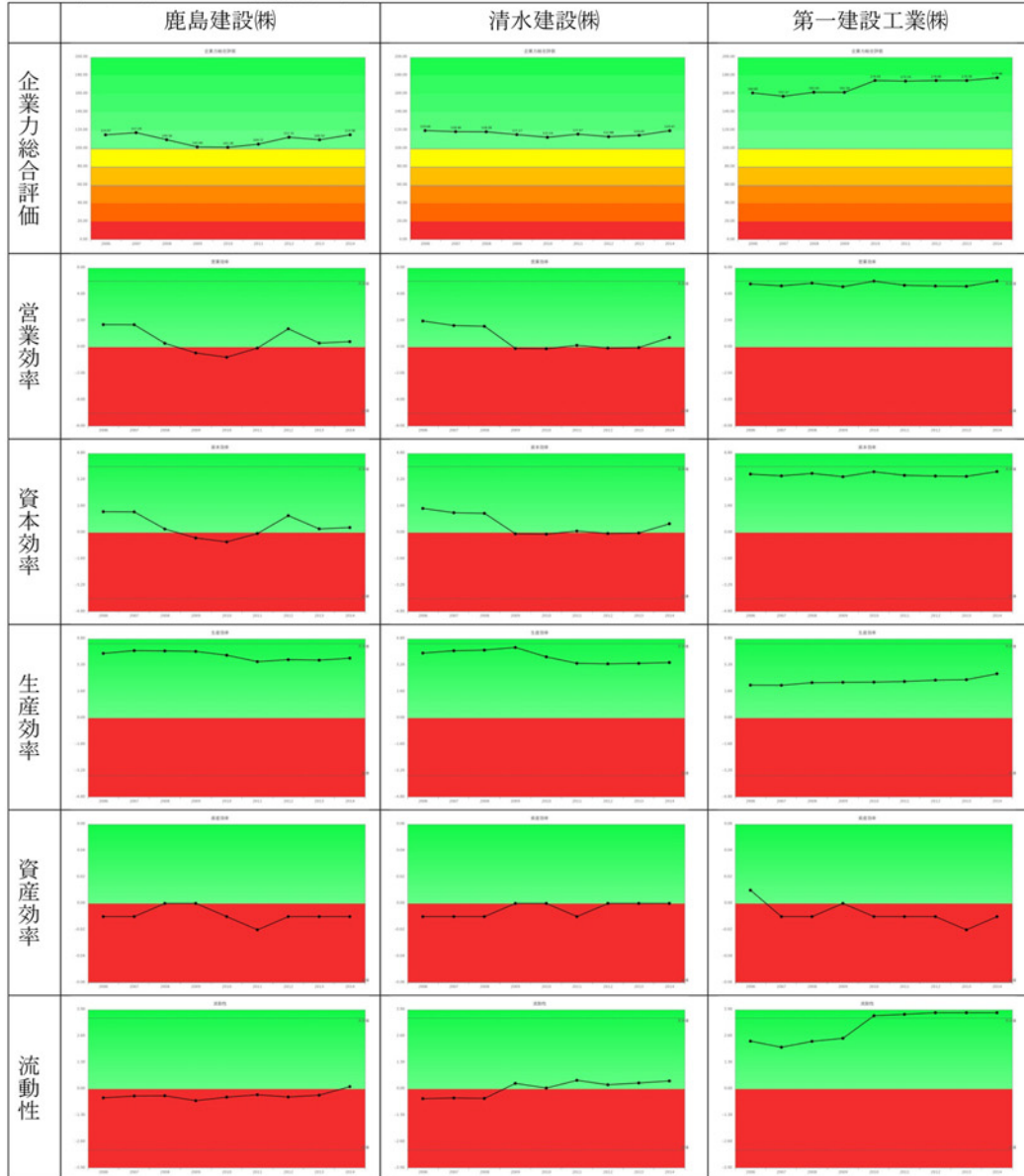


今回は、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、第一建設工業株式会社を分析して比較しました。売上規模と従業員数は、1 兆 5211 億円 (18,519 人)、1 兆 4975 億円 (19,293 人)、501 億円 (886 人) です。第一建設は、他 2 社の 5%に満たない規模です。

2014 年 3 月期までの 9 期分析です。



企業力総合評価、営業効率（儲かるか）、資本効率（株主評価）は第一建設が圧勝です。鹿島建設(株)、清水建設(株)は受注した工事を下請けに発注するので、利益確保は容易に思えますが、そうでもないようです。

生産効率（人の利用度）は、鹿島建設(株)、清水建設(株)が勝っています。

資産効率（資産の利用度）は、3 社あまり変わりません。

流動性（短期資金繰り）、安全性（長期資金繰り）は、第一建設(株)が圧勝しています。

第一建設工業(株)は、新潟市に本社を置き、FA 事業（一括借り上げマンション事業）、コンクリート補修事業、土木事業、建築事業、線路事業、不動産事業を行っています。地元で根差した経営の一方、幅広く優良な会社をベンチマークするなど、外部環境の分析を怠らない会社です。例えば、FA 事業では大東建託(株)、コンクリート補修ではショーボンドホールディングス(株)などをベンチマークしています。また、環境配慮でこれから廃れる可能性ゼロの電鉄会社を顧客としています。

主な取引先は、JR 東日本及びグループ各社、国土交通省、農林水産省、他主要省庁、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、日本下水道事業団、新潟県、長野県、秋田県、山形県、他主要公共発注機関及び民間各社です。JR 各社、民間各社を除き、厳しいと言われる国や地方公共団体ですが、それでも営業効率天井値を推移しているのだから、業績を業界不況のせいにははいけないと教えられます。

まとめ

ゼネコンと言われる鹿島建設(株)、清水建設(株)が売上 3.3%規模の第一建設(株)より、遥かに企業力が低いという結果になりました。企業力は決して売上規模で決まるものではありません。誰でも知っている会社が優良企業ではあるとは限りません。

企業力を決めるのはバランスだと言ってよいでしょう。成長のステージでは、ある程度バランスを崩しながらやり過ごす時期が必要なこともあります、「これ以上はダメ。」というボーダーラインを越えないようにしてください。

そもそも、これだけ規模の違う会社を比較する意味があるのかという疑問を持たれるかも知れませんが、この経営分析では、実数によらず、すべて比率の指標を使っています。たとえば自己資本比率=純資産÷総資本×100 で、大きな会社は分母も分子も大きく、小さな会社は分母も分子も小さくなります。つまり「質」だけを抽出しているのです。そこは通常の財務分析と異なるところです。

編集後記 私たちもキラリと光る優良企業になっていきましょう。

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKI ビル 4F 猿木真紀子税理士事務所
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp